

## 持続可能な世界の実現のために地域に根ざした継続的な活動を支援 第16回「TOTO水環境基金」助成先団体を決定 ～国内6団体、海外6団体に計2,747万円を助成～

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:清田 徳明)は、このたび第16回「TOTO水環境基金」の助成先団体を決定しました。選考の結果、国内6団体、海外6団体の計12団体に計2,747万円を助成します。これにより2021年度は、既に活動中の8件とあわせて、合計20件のプロジェクトへの支援となります。今回の助成により、2005年の設立以来、のべ281団体に対して3億9178万円の助成を行うことになり、活動地域は40都道府県、16カ国に及びます。



清掃活動の様子(福岡県)

これまで、国内で清掃活動および体験型学習に参加した方々からは「地域の環境改善に取り組み、自然豊かな故郷を未来に残したい」「マイクロプラスチックが海や人体に与える影響を知り、勉強になった」といった感想が寄せられ、海外で給水タンク・水汲み場の設置を行った地域の方々からは「今まで、重い取っ手を上下に何回も動かさなければならず、腕がとても痛かったが、簡単に水汲みができるようになり、嬉しい」などの喜びの声が寄せられました。



水汲み場で手洗いする子どもたち  
(パキスタン・イスラム)

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、「TOTOグローバル環境ビジョン<sup>※1</sup>」のもと、地域社会の発展と地球環境の保護に貢献する活動を積極的に推進することで、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。

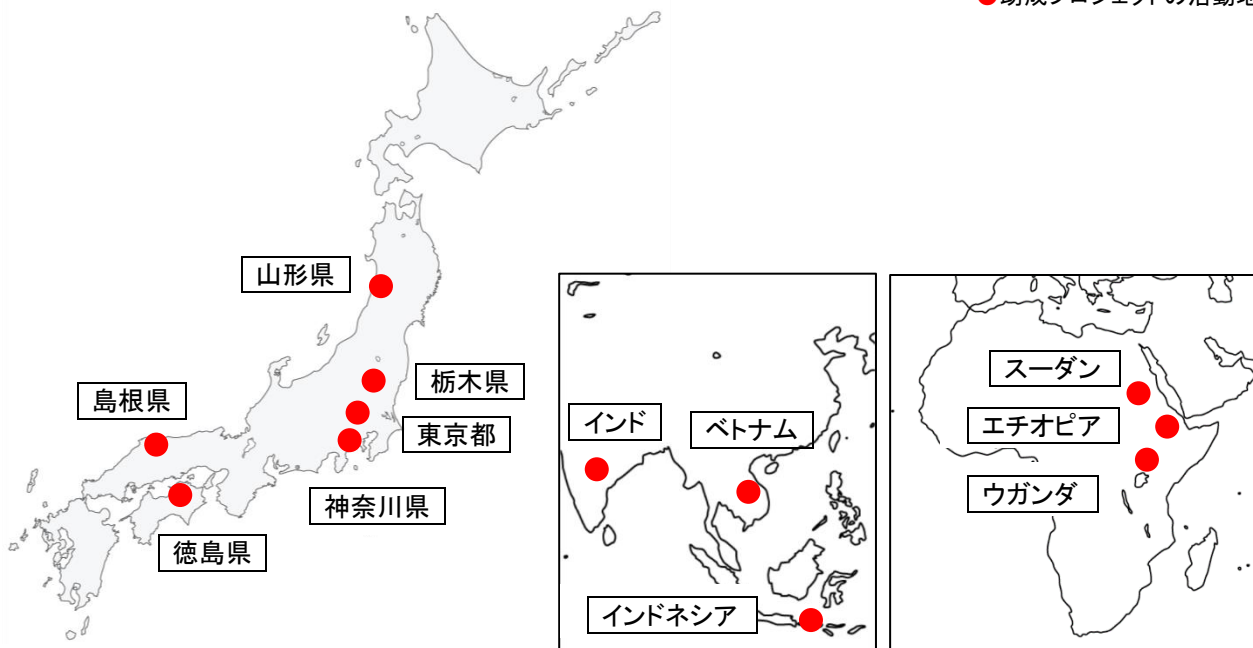
### 「TOTO水環境基金」について

TOTOグループは、持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせないと考え、2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に取り組む団体への助成を続けています。

「地域に根ざした活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」を中心に選考を行い、想いを同じくする団体とプロジェクトを実施しています。当基金は助成によって活動を後押しするだけでなく、最寄の事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加する「協働」にも力を入れています。

## 第 16 回「TOTO水環境基金」助成プロジェクトの活動地

● 助成プロジェクトの活動地



## 第 16 回「TOTO水環境基金」助成団体一覧

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2021年度	2022年度	2023年度
1	団体名： 庄内自然博物館構想推進協議会  プロジェクト名： 市民参加型の湿地資源活用による持続的な湿地再生手法の検討	山形県	「高館山・大山上池・下池、都沢湿地を自然学習のフィールドとして、子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、自然と触れ合う機会を創出しよう」という、多くの人の願いが込められている構想で、2011年に設立。 「都沢湿地は、大型湿性草本であるマコモ、ヨシが面積の約9割を占めている。湿地内の開放水面環境を創出するため、マコモを活用することで湿地管理作業に市民参加を促し、持続的な湿地再生手法の検討を行う。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2021年度	2022年度	2023年度
2	団体名： 特定非営利活動法人 オオタカ保護基金  プロジェクト名： サシバの里ハスの花咲く水辺と生き物復活プロジェクト	栃木県	那須野ヶ原において、オオタカの密猟監視を中心とした保護活動を開始、1989年に設立。活動対象をワシ・タカ類全般へ、内容も生息環境や生態系の保全へ拡大。生物多様性の保全、人と自然が共生する持続可能な地域づくりを目的に「サシバの里自然学校」の運営など幅広く活動している。耕作放棄された里山の田んぼにハスを栽培することで、水辺・湿地として再生し、絶滅危惧種の両生類や水生昆虫の生息場所を確保する等、地域課題の総合的解決を目指す。	○	○	○
3	団体名： 特定非営利活動法人 おちかわの里  プロジェクト名： 落川交流センター・森と水の再生事業	東京都	地元自治会と複数の市民活動団体が、落川交流センター運営委員会として協働で地域の交流活動促進を目的に活動。2020年に設立、地域で多世代の交流がさかんとなり、落川交流センターを拠点とした事業を展開していく。  敷地内の雑木林の樹齢が高くなり、人が踏み固めるため若木が育たず、瀕死の森になっているため、利用する市民とともに、ワークショップ形式で地中の水と空気の循環を取り戻し、森を再生させる。	○	○	○
4	団体名： 特定非営利活動法人 暮らし・つながる森里川海  プロジェクト名： 湘南いきもの楽校プロジェクト「子どもが元気、生き物元気、地域が元気」	神奈川県	国土交通省の水辺の楽校プロジェクトで行政と市民との協働により、2001年に設立。自然離れが進んでいる子どもたちを野に戻そうと川の自然楽校など多様な環境学習活動を展開している。  「馬入水辺の楽校エコミュージアム」の設立を目指し、市民参加による「見える化プロジェクト」を展開し、自然生態圏としての機能整備に取り組む。森と海はつながるをコンセプトに相模川流域での自然環境の保全活動、環境教育活動を実践する。	○	○	○

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2021年度	2022年度	2023年度
5	<p>団体名： 特定非営利活動法人 環境とくしまネットワーク</p> <p>プロジェクト名： せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」 再生化プロジェクト</p>	徳島県	<p>2008年に設立、自然と社会の共存のあり方を創造し、自然共生型社会づくりに貢献し、地球上の環境と生態系の保全、消費者保護に寄与することを目的とする。</p> <p>海岸の漂着ゴミ問題に一層関心を持っていただき、地域一体となって協働した取り組みを行うことを可能とし、地域住民がモニタリングを行うなど、将来は漂着ゴミだけではなく自然・生物環境などを含めた総合的な海岸管理について地域住民主体による共助管理体制の下地作りを目指す。</p>	○	○	○
6	<p>団体名： 千鳥のお堀を学ぶ会</p> <p>プロジェクト名： 国宝松江城堀川の水環境保全を通じた「ふるさと教育」</p>	島根県	<p>松江城(千鳥城)近隣の小・中学校 5校のPTA会長・保護者等で組織された団体。2019年に設立し、「ふるさと学習による地域人材の育成にはどのような活動が必要か」をテーマに小中一貫となり取り組める堀川の水環境保全活動を行っている。</p> <p>汽水の松江堀川には、日本固有種に加え、特定外来種も多数生息しているため、防除に加え、温暖化の影響で繁茂し景観を損なっているシオクサの藻狩りなどを行政・民間企業・地域や学校と連携し実施する。</p>	○	—	—
7	<p>団体名： 公益財団法人 国際開発救援財団</p> <p>プロジェクト名： 山岳少数民族の衛生施設「マザーズ・スペース」の設置</p>	ベトナム	<p>1990年山崎製パン株式会社の創業者である飯島藤十郎氏による3億円の寄付を主な基本財産とし、外務省を主務官庁とする財団法人として設立。開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施。</p> <p>ベトナム国内最貧省の一つである中部高原地域のコントゥム省において、家庭および地域内の衛生環境が劣悪であるという課題を解決すべく、トイレ、洗濯等ができる住民手作りの多用途施設「マザーズ・スペース」設置を省内4郡で推進する。</p>	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2021年度	2022年度	2023年度
8	団体名： 公益財団法人 オイスカ  プロジェクト名： ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業	インド ネシア	すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指して1961年に設立。現在36の国と地域に組織を持つ国際NGOで主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開している。  海岸浸食による沿岸部の消失が著しいドゥマック県において児童を対象に水環境保全に向けた実践的な環境教育を推進する一方、水害が著しい小学校に対して、校舎床の嵩上げやトイレ建設などを支援し、子どもたちの衛生および教育環境を改善する。	○	—	—
9	団体名： 認定特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン  プロジェクト名： インドにおける住民参加型の安全な飲料水供給プロジェクト	インド	「2030年までにすべての人がすべての場所で清潔な水と衛生を利用できること」をビジョンとし、日本法人として2013年に設立。  途上国での水・衛生プロジェクトの実施、国内外での政策提言、学校との連携による開発教育・各種イベントを通じた関心喚起に取り組んでいる。  慢性的な干ばつや水道の普及率が低いことが原因で安全な水の入手が困難になっているマディヤ・プラデシュ州において、住民主体で給水設備の整備計画を策定・実行、維持管理を自立的に行うしくみを構築し、住民が清潔な水の利用可能を目指す。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2021年度	2022年度	2023年度
10	<p>団体名： 認定特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構</p> <p>プロジェクト名： 学校のトイレを利用しよう！衛生教育で自分の体を守る！</p>	エチオピア	<p>2000年に起きたインド大地震の国際災害緊急支援をきっかけに設立。発展途上国の人々を支援する国際協力団体として、コミュニティ開発支援事業等、国際開発事業を展開している。</p> <p>エチオピアの南部諸民族州の国内外から支援がない小学校の児童は「臭い！汚い！危ない！」学校トイレを利用せざるを得ない現状である。保護者や教師、住民たちの建設作業協力を得て学校用トイレと手洗い場を設置する。教師に衛生教育研修を実施し、教師がトイレの管理や手洗いを含めた衛生教育を児童に行う。</p>	○	—	—
11	<p>団体名： 特定非営利活動法人 ホープフル・タッチ</p> <p>プロジェクト名： 学校での水へのアクセスと水衛生教育</p>	スーダン	<p>シリアとの国境県市郊外の遠隔農村にて、ニーズがありながら他の支援機関が届かない難民家族を支えるため、ボランティア活動から開始、2016年設立。コミュニティのエンパワメントを基本とした子どものライフスキル向上を目指している。</p> <p>子どもが安全な水衛生環境にアクセスし、最低限の衛生管理スキルを得ることを目標に、ハルツーム市郊外の水が通っていない小学校1校において水へのアクセスを確保し、この1校を含む6校において水衛生教育を普及するトレーニングを実施する。</p>	○	—	—
12	<p>団体名： 認定特定非営利活動法人 道普請人(みちぶしんびと)</p> <p>プロジェクト名： ブッシ島4村での安全な水へのアクセスと環境保全・衛生啓発</p>	ウガンダ	<p>「開発途上国の問題は、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決する」ことの実現を目指し、2007年に設立。「土のう工法」による道づくりを中心に、エンジニアとしての技術開発、現地住民への技術移転・定着化を世界各地で工夫をしながら進めている。</p> <p>安全な水へのアクセスが低いブッシ島の4村に雨水集水タンクを設置し、住民による設備の維持管理システムを構築する。併せて安全な水利用・衛生についてのワークショップを開催し、住民の衛生意識向上を図る。また、地元小学生を中心とした育苗・植林により、島内の森林復元を目指す。</p>	○	—	—

## 「TOTO水環境基金」ホームページ

<https://jp.toto.com/company/csr/environment/mizukikin/>

ウェブサイトでは、各団体の活動内容について写真を交えて紹介。活動に携わった方や現地の皆さんの喜びの声も紹介し、より具体的に活動の目的や意味・成果をお伝えしています。

### ※1:TOTOグローバル環境ビジョン

TOTOグループは、マテリアリティに基づく具体的な CSR 活動計画として、「TOTOグローバル環境ビジョン」を推進しています。このビジョンでは、グローバルで取り組む 3 つのテーマとして「きれいと快適」「環境」「人とのつながり」を掲げ、きれいで快適な暮らしを世界にお届けし、環境にやさしいものづくりを行い、人とのつながりを大切に活動しています。また、このビジョンを中期経営計画「TOTO WILL2022」の推進エンジンとすることで、経営と CSR の一体化を図るとともに、これらの活動を通じて、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」についても貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/csr/vision/index.htm>

### TOTOグローバル環境ビジョン

## 水と地球の、あしたのために。

私たちTOTOグループは、水まわりから環境に貢献するために、「グローバル環境ビジョン」を掲げ、節水や省エネなどさまざまな取り組みを続けています。環境にやさしいものづくりを行い、きれいで快適な暮らしを世界に届け、人とのつながりを大切に活動してまいります。水と地球の、あしたのために。これからも、持続可能な社会を目指して、TOTOグループ全員の力で、実現していきます。

[URL] <https://jp.toto.com/company/csr/vision/index.htm>



グローバル環境ビジョンの 3 つのテーマを中心に、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」についても貢献していきます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

